

広大な『巨椋池干拓地』で、「稲刈り体験」や「いもほり」

近鉄向島駅の西に広がる『巨椋池干拓地』で、「宮本ファーム」の「稲刈り体験会」や、「中嶋農園」の「いもほり」は、新型コロナ感染防止対策を行い開催されました。

「宮本ファーム」の「稲刈り体験会」



10月4日(日)、「宮本ファーム(3代目:宮本直嗣さん)」主催の「稲刈り体験会」が「宮本ファーム」の田んぼで行われました。

今年は、コロナ禍のため例年の公募による「体験会」は取りやめ、宮本さんが一緒にラグビーの普及にあたっている「京都伏見クラブ」の子どもたちと父兄のみなさんを対象に行われました。

同日朝9時に、「種智院大学」西側に40人ほどが集まり、宮本ファームの田んぼをめざし、約1kmの田んぼ道をゴミを拾いながら歩きました。

会場となった田んぼには、今年中止になった「田んぼラグビー」の旗が目印として立てられていました。

田んぼに着くと、宮本さんが「鎌」を使った稲刈りの方法を説明。子どもたちは鎌を使って次々と稲を刈り、みんなで刈った稲を脱穀機に入れて、お米を収穫しました。

そのあと、順番に子どもたちが脱穀機に乗せてもらい、脱穀機による稲刈りも体験しました。

「中嶋農園」の「いもほり×もみ殻焼きいも&薪焚きの新米ごはん」

「株式会社中嶋農園」主催、「NPO法人木野環境」共催による「いもほり×もみ殻焼きいも&薪焚きの新米ごはん」が、10月25日(日)朝10時より、「中嶋農園」の畑で行われました。

参加者には、集合時のマスクの着用、体調不良の方の参加見合わせ、消毒などの協力をもとめ、新型コロナ対策を行い実施されました。

参加者は、帽子やマスク、レジャーシートなどを持参し、朝9時45分に近鉄向島駅改札口に集合。駅から約5分の「いもほり会場」の畑に向いました。

「中嶋農園」は、循環型農業に挑戦しています。「中嶋農園」が、お米や野菜を納品した飲食店などから出る生ゴミを農園に戻し、堆肥化したものも畑にまいて野菜を育てています。

参加者は、さつまいもを掘り、もみ殻焼きいもなどを味わい、秋満喫のイベントを楽しみました。



まちづくりビジョンの4年間で振り返り、これからを話し合おう!

「向島まちづくりビジョン報告会・今後のまちづくりに向けた意見交換会」を開催します!

2017年にまちづくりビジョンを策定し、100を越える取組について検討、活動を進めてきました。この3月末にビジョンは当初設定していた計画期間の終わりを迎えます。

そこで、この4年間の進捗やまちづくりの課題などをみなさんと共有し、今後のまちづくりに関して語り合う「報告会」「意見交換会」を開催します。

どなたでもご参加いただけます。なお、参加にあたって配慮が必要な方がおられましたら、開催日の10日前までに事務局までご連絡ください。

お願い 事前申込は不要ですが、会場定員を超える場合は、新型コロナウイルス感染予防のため、入場を制限する場合があります。また、会場では参加者把握のため氏名・連絡先等を記入いただくとともに、検温・消毒・マスク着用等の感染予防にご協力をお願いします。

- 日時: 2021年1月23日(土) 午後2時~4時
場所: むかちゅうセンター(元向島中学校)
- 日時: 2021年1月30日(土) 午後2時~4時
場所: 向島学生センターセミナーハウス

基本的にいずれも同じ内容です。ご都合に合わせてご参加ください。

※新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、中止または延期、内容変更を行うことがあります。その際は、各所掲示版やウェブサイト(向島まちづくりポータルサイト)にてお知らせしますので、ご注意ください。



発行: 向島まちづくりビジョン推進会議

■事務局・問い合わせ先

京都市都市計画局都市企画部都市総務課 担当: 池田, 片山, 差巖

電話: 075-222-3610 ファックス: 075-222-3689

メール: toshisomu@city.kyoto.lg.jp

向島の魅力情報・まちづくり情報は

向島まちづくり情報発信ポータルサイト

向島まつり

検索



~向島ニュータウン再生・向島地域の活性化~
「人の力で、まちはかえられる」

向島まちづくり通信 第21号

令和2年12月22日発行



中文版, 請看下面的網址。 <http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/page/0000199646.html>

むかちゅうセンター
(元向島中学校)だより

—新型コロナ感染防止対策のもと— 「向島まつり2020」開催

コロナ禍の中、「集まれなくても、つながっている」 をコンセプトにして開催

新型コロナ禍の中、『向島まつり2020』(主催: 同実行委員会, 日高秀昭委員長)が、10月25日(日)に「むかちゅうセンター(元向島中学校)」をメイン会場にして開催されました。

新型コロナ感染防止対策として、メイン会場となった「むかちゅうセンター」では、出入口を東門1ヶ所にして受付を置き、参加者のみなさんに消毒、検温、マスクの着用、参加者名簿への記入などのご協力をお願いしました。

会場での食品の販売は「テイクアウト」を基本にし、密にならないよう「集まれなくても、つながっている」をコンセプトに行われました。



向島の歴史・史跡を示す「駒札巡り」

『向島まつり2020』の新しい企画の一つが、向島の11ヶ所に設置された向島の歴史・史跡『駒札巡り』です。向島にはかつて、現在の観月橋南詰めあたりに豊臣秀吉(1536?~1598)が築城した『向島城』があり、『巨椋池』が広がっていました。

向島の歴史「駒札」は、埋もれた向島の歴史を示



すものです。「駒札」の場所を示すマップが掲載された小冊子『むかいじまつり だいすき』が事前に配布され、それに基づいて「駒札巡り」を行ったみなさんが「まつり」当日、向島5学区に設置された「スタンプポスト」に寄っていただく企画で、延べ百数十人の参加がありました。

動画の配信、ラジオ番組の放送、 オンラインでのクイズ大会も

「まつり」当日には、「むかちゅうセンター」に「ミニラジオ局」が設置され実況放送が行われた他、事前に収録されたラジオ番組が、FM84.5と京都三条ラジオカフェで放送され、オンラインでのワークショップの中継も行われました。

会場の中庭と地域交流室では、「地元新鮮野菜」の販売や、アジア、南米、ロシアなどの郷土料理のテイクアウトや各国グッズ、絵画などの販売。体育館やグラウンドでは、インラインスケートやラグビーなどのデモンストレーションも行われました。

「京都新聞」で「向島まつり」を紹介

各地の「まつり」などが中止される中、コロナ感染防止対策を行って開催された『向島まつり』にマスコミも注目。『京都新聞』は、『向島まつり』の紹介記事を10月23日付、10月26日付の2回掲載しました。

むかちゅうセンター
(元向島中学校)だより

多国籍のみなさんの交流の場に！

向島のみなさんなどで利用されている「むかちゅうセンター」は、色々な国籍の人たちの交流の場所ともなっています。

向島フィリピンコミュニティ バスケットボール・グループ



「むかちゅうセンター」の体育館では、毎週日曜日、「向島フィリピン・コミュニティバスケットボールグループ」による、バスケットボールの練習や試合などが行われ、フィリピンの公用語であるタガログ語が飛び交っています。

フィリピンで最も人気のあるスポーツ

バスケットボールは、フィリピンで最も人気のあるスポーツで、体育館で行われている練習は迫力十分です。試合となると、京都市内だけでなく、奈良のチームも含め5チームが参加します（大阪のチームは大阪で新型コロナの感染が広がっているため、参加を見合わせています）。

はじまりは「地域でつながる日本語教室」

バスケットボールグループ結成のきっかけは、京都市からの委託事業として、京都文教大学の教員や学生のみなさんが、向島に住むフィリピンや南米など外国籍の市民のみなさんを対象にはじめた「地域でつながる日本語教室」です。

「向島・文化の日フェスタ」に 多国籍の方が集いました！

「LKC（文化でつながる京都）」と京都文教大学「地域でつながる日本語教室」のよびかけで、11月8日（日）午後2時から「むかちゅうセンター」2階の交流ルームで、多国籍の人たちが集う「向島・文化の日フェスタ」が開催されました。11月3日の「文化の日」にちなんで、多文化共生のお祭りです。

会場には、ペルー、メキシコ、フィリピン、ベネズエラ、韓国、スペイン、ブラジル国籍の人たちや、地元向島のみなさん、京都文教大学の教員、学生のみなさんらが集まり、お国自慢のお菓子の作り方を紹介し交流しました。

ダンス、ギター、トランペットの演奏も

会場では、ダンスや楽器の演奏なども披露されました。南米ベネズエラでは、青少年の音楽教育に力が注がれています。この日、トランペットの演奏を行ったベネズエラ国籍の青年は、母国でユースオーケストラに所属したこともあったとのことでした。

フィリピン国籍のみなさんは、バンブーダンスを披露しました。コロンビア国籍の方は特産コーヒーの説明を行いました。

「むかちゅうセンター」では、多国籍の方たちと地元の人たちの交流の企画が、色々すすまられています。



「むかちゅうセンター」前の横断歩道がハッキリ見えるようになりました！

「むかちゅうセンター（元向島中学校）」西門前の横断歩道と元向島二の丸小学校北側の横断歩道は消えかかっていた危険でしたが、補修が行われ、ハッキリ見えるようになりました。



向島ニュータウン1街区と5街区の児童公園が、 住民のみなさんの取組でよみがえりました

向島市営住宅1街区、5街区の児童公園は、長い期間放置されペンキがはがれたままになっていました。

向島地域の住環境を改善する取組をすすめてきた「向島まちづくりビジョン推進会議」の「住環境ワーキンググループ」の提案で、1街区と5街区の児童公園の剥げ落ちたブロックのペンキを塗り直し、再生させる計画を立てました。

作業は、新型コロナウイルスの感染拡大で延期されてきましたが、11月14日（土）に、市営住宅の住

民のみなさんなど「住環境ワーキンググループ」のメンバー10人ほどが集まり、5街区3棟と5棟の間の児童公園と、1街区6棟北東角の児童公園について、朝9時より下塗りなどの準備作業を11時まで行い、午後から5色のペンキによるペイント作業を、かすかな残色を頼りに午後5時まで行いました。

ペイント作業が行われた市営住宅の2つの児童公園は、あざやかな色彩を取り戻しました。



▲ペイント作業中のみなさん



▲ペイント作業後の1街区児童公園



▲ペイント作業後の5街区児童公園

向島5学区の自治会関係者による、観月橋高架下 駐輪場の放置自転車撤去作業が実施されました

伏見区役所地域力推進室が、向島5学区（向島学区、向島南学区、向島二の丸学区、二の丸北学区、向島藤ノ木学区）の自治会関係者などに呼びかけ、観月橋高架下駐輪場の放置自転車撤去と清掃作業が昨年に続き10月31日（土）、11月21日（土）の両日行われました。

10月31日の作業では、使用されていない自転車を対象に絵符を貼り、駐車場内を清掃しました。11月21日の作業では、絵符が貼られたままの自転車を南側駐輪場の一角に集め、清掃作業を行いました。

これらの放置自転車は、後日業者により撤去されました。観月橋高架下駐輪場は、国、向島学区自治連合会、

伏見区の申し合わせにより、無料で駐輪できる駐輪場として運用されています。京阪観月橋駅が近く、無料で利用できるため、多くの方に利用される一方、放置自転車やごみの投棄が見られます。

両日とも、向島5学区の自治会関係者、伏見区役所の職員など二十数名が朝9時30分に南側の駐輪場に集まり作業をすすめました。

この広い無料駐輪場を維持するためには、住民のみなさんによる今回のような取組が欠かせません。

伏見区役所地域力推進室の職員によると、今後清掃活動については年1回ではなく、数回行うことも検討しているとのことでした。



▲向島5学区自治会関係者が参加



▲10月31日放置自転車に絵符貼り



▲11月21日絵符付き自転車を集積

